







令和8年度 防災・伝承セミナーin大崎

吉田川昭和61年8月洪水から40年

災害の教訓を未来に活かす

日時 11月13日(金) 13：00～16：00（開場 12：30）　**参加無料**

会場 村田工務所 パタ崎さんHallおおさき「大ホール」／大崎市民会館
(住所／宮城県大崎市古川北町五丁目5番1号)

定員 会場 500名 オンライン同時開催
※事前申込制　※定員になり次第締め切り

申込締切 令和8年11月6日(金)17:00まで

基調講演

気候変動とともに生きる



京都大学 総長特別補佐　名誉教授／一般財団法人日本気象協会顧問　**中北　英一 氏**

パネルディスカッション

災害伝承を考える

災害が相次ぐ今、過去の教訓を知らないままで大丈夫？

今回は、川やまち、田んぼも含めた流域全体で水害を減らす「流域治水」に取り組む団体や、「NIPPON防災資産」に認定された災害伝承活動を担う皆さんをパネリストに迎えます。

地域の経験と教訓を受け継ぎ、命を守るために、なぜ災害伝承が必要なのかを一緒に考えましょう。



モデレーター
東北大学災害科学国際研究所 准教授
佐藤 翔輔 氏



コメンテーター
ほやドル
萌江 氏

未来へのメッセージ

大郷中学校 ・ 鹿島台小学校　生徒・児童の皆さん

防災について学んできた中学生・小学生が、これからの地域や未来に向けて、
自分たちの思いや伝えたいことを発表します。

【主催】国土交通省東北地方整備局 北上川下流河川事務所、大崎市、(一財)3.11伝承ロード推進機構　【共催】宮城県

【後援】鳴瀬川等流域治水協議会、(一社)宮城県建設業協会、(一社)建設コンサルタンツ協会東北支部、(一社)東北地域づくり協会
河北新報社、三陸河北新報社(石巻かほく)、大崎タイムス社、日刊建設通信新聞社東北支社、日刊建設工業新聞社東北支社
建設新聞社、NIPPON防災資産サポートセンター

※本セミナーは、一般社団法人全国建設業協会連合会CPDS(継続教育)認定プログラム【3ユニット】を取得できます。
※こちらは本人確認が必要な講習です。 ※オンライン受講はCPDSユニット対象外です。

出演者の紹介 ／ 参加申し込みは、裏面をご覧ください。

令和8年度 防災・伝承セミナーin大崎

吉田川昭和61年8月洪水から40年

災害の教訓を未来に活かす

日時 11月13日（金） 13：00～16：00（開場 12：30）

会場 村田工務所パタ崎さんHallおおさき大ホール（大崎市民会館 ／宮城県大崎市古川北町五丁目5番1号）

プログラム

13：00	【オープニング映像】	
13：10	【開会】	
13：15	【主催者挨拶】	東北地方整備局長　小島　優　氏 大崎市長　中島 源陽　氏
13：30	【基調講演】	「気候変動とともに生きる」　中北 英一　氏
14：15	【休　憩】（10分間）	
14：25	【パネルディスカッション】	「災害伝承を考える」
15：40	【未来へのメッセージ】	大郷中学校・鹿島台小学校の生徒・児童のみなさん
16：00	【閉会】	

出演者・活動団体プロフィール

基調講演



講　師

中北 英一（なかきた えいいち） 氏

京都大学総長特別補佐
名誉教授
(一財)日本気象協会顧問

気象学・水文学・防災工学を専門とする防災研究の第一人者。京都大学防災研究所長を歴任し、現在は社会資本整備審議会河川分科会長として、我が国の治水・防災政策をリードしています。

パネルディスカッション



モデレーター

佐藤 翔輔（さとう しょうすけ） 氏

東北大学
災害科学国際研究所
准教授

災害の記憶をどのように伝え、受け継ぐか、その効果を調べる研究や、災害・防災について伝え合う方法を、実際の現場と協力しながら研究しています。このほか、防災・減災の大切さを伝える活動や、ツールを使った活動も行っています。

パネルディスカッション



コメンテーター

小崎 博子（こざき ひろこ） 氏

株式会社ジェイアール
東日本企画
執行役員

東日本大震災発生時は、JR東日本仙台支社にて勤務し、復旧後の観光による被災地復興に取り組みました。2023年、地域と共に「東北復興ツーリズム推進ネットワーク」を発足。現在、南三陸さんさん夢大使としても活動しています。



コメンテーター

萌江（もえ） 氏

ほやドル
北上川下流河川事務所
河川愛護特別大使

石巻市出身。2017年より、ほやの美味しさを全国・全世界に広めるため、ほやのアイドル「ほやドル」として活動開始。多方面で宮城県をPRする活動も行っています。河川の魅力や地域の情報を楽しく発信しながら、ミズベを盛り上げていきます。



パネリスト

早坂 幸夫（はやさか ゆきお） 氏

りゅうちるネットワーク
会長

【りゅうちるネットワーク】
宮城県の中央部を流れる吉田川で発生した大規模な水害を教訓に、「“みず”から守る流域治水」を掲げ、クリーンアップ活動や流域治水収穫祭などを通じて、地域の安全・発展に取り組んでいます。



パネリスト

原田 拓也（はらだ たくや） 氏

栗駒山麓ジオパーク
推進協議会　専門員

【栗駒山麓ジオパーク】 NIPPON防災資産 認定
「自然災害との共生と豊穣の大地の物語」の考えのもと、日本で最大級の地すべり地形をほぼそのまま残しています。災害をテーマとしたジオパークとして、防災・減災への意識を高めるための活動を続けています。



パネリスト

高田　悟（たかだ さとる） 氏

いわき震災伝承みらい館
館長

【いわき震災伝承みらい館】 NIPPON防災資産 優良認定
「いわき語り部の会」と協力しながら、館内だけではなく、ガイドツアーや出張講話、オンラインでの講話など、さまざまな語り部活動を実施。また、若い世代から新しい語り部を見つけ、育てていく取組にも積極的に力を入れています。



パネリスト

関　俊明（せき としあき） 氏

嬬恋村郷土資料館
館長

【嬬恋村・天明三年浅間山噴火災害語り継ぎ活動】 NIPPON防災資産 優良認定
今も天明3年の浅間山噴火災害の跡が残されている嬬恋村鎌原地区では、「火山災害と復興」を実際に見て学べる場づくりに取り組んでいます。地域の皆さんの語り継ぎ活動や関係団体と協力した行事などが行われています。



パネリスト

髙野 正己（たかの まさみ） 氏

関川村総務課
防災専門官

【えちござきかわ大したもん蛇まつり】 NIPPON防災資産 優良認定
まつりの大蛇は、羽越水害が起きた日にちなみ82.8mあります。村の中学生全員が参加し、事前学習でまつりの意味を学びます。令和4年8月の大雨では住民が早めに避難するなど、水害の教訓と備えの意識が地域に根づいています。

「NIPPON防災資産」とは

地域で発生した災害の教訓を伝える施設や伝承活動を内閣府と国土交通省が認定する制度です。防災への意識を高め、災害リスクを「自分事」として捉えて主体的な避難行動につなげることを目的として、2024年5月に創設されました。これらを過去の「遺産」として残すだけでなく、私たちが今と未来の命を守るために生かすべき大切な「資産（たからもの）」であるという意味がこめられています。

参加申し込み

参加無料

会場・オンラインともに
事前申込制

- 定　員：会場／500名（定員になり次第締め切り）
- 締　切：令和8年11月6日（金）
- 申し込み：右記の二次元コード、または当機構ウェブサイトからどうぞ
  https://www.311densho.or.jp

3.11伝承ロード推進機構

お問い合わせ

一般財団法人 3.11伝承ロード推進機構　〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3-2-26　コンヤスビル3F
メールアドレス／ info@311densho.or.jp　TEL:022-393-4261　営業時間：月～金　9:00～17:30（祝日を除く）